

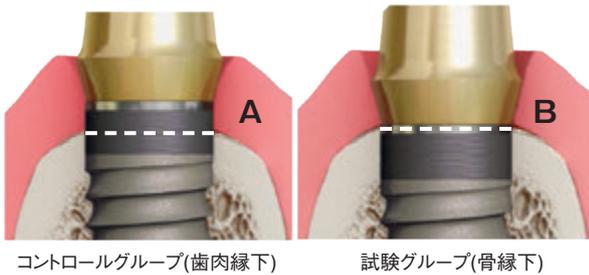
歯肉縁下埋入、骨縁下埋入の影響



Hard and soft tissue changes after crestal and subcrestal immediate implant placement.

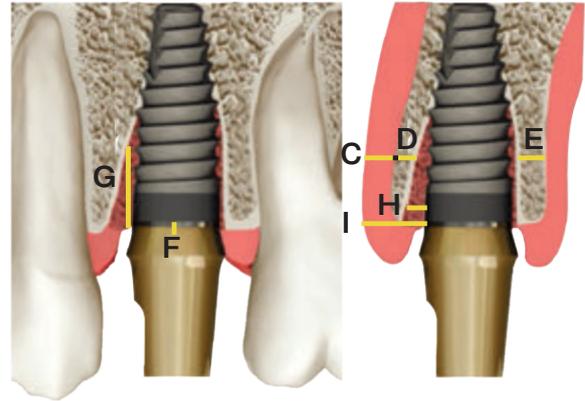
歯肉縁下および骨縁下へのインプラント抜歯即時埋入後の硬・軟組織の変化

RU Koh, TJ Oh, I Rudek, GF Neiva, CE Misch, ED Rothman, HL Wang.
J Periodontol. 2011;82:1112-1120.



コントロールグループ(歯肉縁下)

試験グループ(骨縁下)



埋入レベルおよび臨床測定。A) 歯肉縁下埋入 B) 骨縁下埋入 C) 頬側歯肉の厚さ D) 頬側骨の厚さ E) 口蓋側骨の厚さ F) MBL G) TE H) HDD I) T-I

背景

本研究の目的は、カラー部に Laser マイクロテクスチャーを付与したインプラントの歯槽骨・軟組織レベルの埋入深度による影響を評価することである。更に、垂直的・水平的骨欠損の回復について評価し、抜歯即時埋入インプラントが臨床的結果に影響を与える要因を特定した。

方法

保存困難な歯(前歯部もしくは臼歯部)がある患者 24 名に対して、インプラント治療をおこなった。患者を無作為に選択し、口蓋側歯槽骨頂歯肉縁下あるいは歯槽骨縁下 1mm にインプラントを埋入した。角化歯肉(KG)の幅と厚さ、水平的骨欠損の深度(HDD)、頬側および隣接面間の辺縁歯槽骨レベル(MBLs)、頬側のスレッド露出、組織-インプラント(T-I)の水平的距離、歯肉炎指数(GI)および歯垢指数(PI)などの臨床的指標を、ベースライン時(術直後)および術後 4 ヶ月に評価した。更に、歯間乳頭指数の歯間乳頭高さ(PH)、および歯肉レベル(GL)を含む軟組織のプロファイル計測を、術後 6 ヶ月ならびに 12 ヶ月のクラウン装着後におこなった。

結果

術後 4 ヶ月におけるインプラントの成功率は全体で 95.8%であった(1本脱落)。24 名中 20 名が最後まで研究対象となった。ベースライン時には頬側の辺縁歯槽骨レベル(P=0.035)以外は、全ての臨床的指標において歯肉縁下および骨縁下 2 つのグループに有意差はなかった。骨縁下グループは、ベースライン時からの 4 ヶ月間で、歯肉縁下グループより組織(角化歯肉)が著しく厚くなっていた。その他の臨床的指標(歯間乳頭指数、PH、GL、PIおよびGI)はどの計測時点においても有意差がみられなかった。頬側骨の厚みは $\leq 1.5\text{mm}$ 、HDDは $\geq 2\text{mm}$ で、頬側辺縁骨吸収に大きな相関があった。頬側骨の厚みが $\leq 2\text{mm}$ およびHDDが $\geq 3\text{mm}$ の場合は、水平的変化に対して大きな相関性がみられた。

結論

インプラントの抜歯即時埋入手術は予知性のある外科術式(残存率 96%)であり、埋入位置のレベルは水平的、垂直的な骨変化ならびに軟組織の変化に影響しなかった。本研究では、厚い頬側骨やギャップが小さいこと、そして臼歯部においては、抜歯即時埋入インプラントの予後がより良好であると示唆された。